

# 論述審査(語学)

## 問題用紙

- ・ 論述審査(語学)の解答は、事務局より送付された解答用紙を開き、各自の作業環境において、マイクロソフト Word で作成し、後述の【提出先】へアップロードしてください。
- ・ Word ファイルの 1 行目の枠内に、氏名、受験番号(メールで通知)を記載してください。
- ・ Word ファイル名は、「受験番号 - (ハイフン) 問題番号」としてください。
- ・ 答案は、他の人に相談せず、独力で作成してください。

【提出期限】 ×××××××××××××××××××× 受信まで  
(提出メ切の日時を過ぎて本学で受信が確認された場合は無効)

【提出先】 以下のフォームから、解答ファイルをアップロードしてください。

××××××××××××××××××××

提出が正常に完了した場合は、Google formsより受領確認メール(件名「博士後期課程入試 論述審査(語学) 2025 年度第 1 回入試」)が届きます。3 時間以内に届かない場合は、問合せ先メールへご連絡下さい。

Google フォームのファイルアップロード機能を使用しているため、  
Google アカウントのログインを求められます。

アカウントをお持ちでない(作成方法がわからない)場合は××××××××××××××までに以下のメールへお問い合わせ下さい。

問い合わせ先:×××××××××××××× 博士後期課程 入試委員会宛

次の 2 つの論文を読み、以下の問 1～3 に答えなさい。すべて日本語で解答すること。  
いずれもオンラインにて無料で全文入手可能な論文である。入手や出題に関する質問については受け付けない。

課題論文①

Bartlett, T., & Schugurensky, D. (2020). Deschooling society 50 years later: Revisiting Ivan Illich in the era of COVID-19. *Sisyphus—Journal of Education*, 8(3), 65–84.

(<https://revistas.rcaap.pt/sisyphus/article/view/20833>)

課題論文②

Hoadley, C., & Campos, F. C. (2022). Design-based research: What it is and why it matters to studying online learning. *Educational Psychologist*, 57(3), 207–220.

(<https://www.tandfonline.com/doi/full/10.1080/00461520.2022.2079128>)

問 1 課題論文①について、以下の問いに答えなさい。

問 1-1 Illich の学校に対する考えを、その仕組みや機能に言及しながらまとめなさい。

問 1-2 Illich の提唱した「ラーニング・ウェブ」の特徴と課題をまとめなさい。

問 1-3 ポストコロナ時代における学校での学びの役割について、課題論文での議論をふまえながら、あなたの考えを述べなさい。

問 2 課題論文②について、以下の問いに答えなさい。

問 2-1 この論文の意義について述べなさい。

問 2-2 この研究手法の肯定的な側面と否定的な側面について、あなたの考えを述べなさい。

問 2-3 もしあなたが DBR を使って研究を行うとしたら、どのようなテーマ、対象、研究デザインを立てますか。例をあげて説明しなさい。

問 3

問 1 と問 2 で提示された 2 つの論文のうちいずれかを選び、該当論文（の結果）はあなたの専門分野における研究または教育実践にどのような貢献をすると考えられるか、800 字程度で述べなさい。

# 論述審査(語学)

## 問題用紙

- ・ 論述審査(語学)の解答は、事務局より送付された解答用紙を開き、各自の作業環境において、マイクロソフト Word で作成し、後述の【提出先】へアップロードしてください。
- ・ Word ファイルの 1 行目の枠内に、氏名、受験番号(メールで通知)を記載してください。
- ・ Word ファイル名は、受験番号としてください。
- ・ 答案は、他の人に相談せず、独力で作成してください。

【提出期限】 ××××××××××××××××受信まで  
(提出メ切の日時を過ぎて本学で受信が確認された場合は無効)

【提出先】 以下のフォームから、解答ファイルをアップロードしてください。

××××××××××××××××××××

提出が正常に完了した場合は、Google formsより受領確認メール(件名「博士後期課程入試 論述審査(語学) 2025 年度第 2 回入試」)が届きます。3 時間以内に届かない場合は、問合せ先メールへご連絡下さい。

Google フォームのファイルアップロード機能を使用しているため、  
Google アカウントのログインを求められます。

アカウントをお持ちでない(作成方法がわからない)場合は××××××××××までに  
以下のメールへお問い合わせ下さい。

問い合わせ先:×××××××××××× 博士後期課程 入試委員会宛

次の 2 つの論文を読み、以下の問 1～3 に答えなさい。すべて日本語で解答すること。

いずれもオンラインにて無料で全文入手可能な論文である。入手や出題に関する質問については受け付けない。

### 課題論文①

Efron, K. A. (2020). Representations of Multiculturalism in Japanese Elementary EFL Textbooks: A Critical Analysis, *Intercultural Communication Education*, 3(1), 22-43.

(<https://www.castledown.com/journals/ice/article/view/ice.v3n1.224>)

### 課題論文②

Holmes, W., Bialik, M., & Fadel, C. (2023). Artificial intelligence in education. *Artificial Intelligence in Education*, 621–653.

(<https://discovery.ucl.ac.uk/id/eprint/10168357/1/Holmes%20et%20al.%20-%202023%20-%20Artificial%20intelligence%20in%20education.pdf>)

### 問 1 課題論文①について、以下の問いに答えなさい。

なお、すべての解答は本論文にある情報にのみ基づいて作成し、参照した情報の論文中の所在を（ページ）を明記すること。[例：「CDA とは～という分析方法である（p.25）。」]

問 1-1 なぜ CDA がこの研究の方法として適していると言えるのか、CDA の特徴に言及しつつ、著者の主張を述べなさい。

問 1-2 この調査結果から明らかになった問題点は何か。具体例を挙げながら著者の主張を簡潔に説明しなさい。

問 1-3 前問で指摘されたような問題点を改善するために、論文内の各所でいろいろな方策が提案されている。どの点に対してどのような対応策が提案されているかを、できるだけ多く書き出しなさい。解答は文章としてまとめてもよいが、表やリストにしても構わない。

### 問 2 課題論文②について、以下の問いに答えなさい。

作成にあたっては、英文の翻訳ではなく、本文中のキーワードを意識しながら自分の言葉で表現すること。また、論文中の情報の所在を括弧内にページ数で示すこと。[例：「AI は、～がある（622）。」]

問 2-1 この論文における AIED（Artificial Intelligence in Education）に関する 6 つのトピックの概要をまとめなさい。各項目につき 150 文字前後、合計で 900 字前後が望ましい。

問 2-2 論文中で「42.3 The Social Consequences of AI in Education」に示されているポイントを 400 字程度でまとめなさい。

問 2-3 論文中で「42.3.2 The Ethics of AIED」について、著者の主張を 300 字程度でまとめなさい。

### 問 3

問 1 と問 2 で提示された 2 つの論文のうちいずれかを選び、該当論文（の結果）はあなたの専門分野における研究または教育実践にどのような貢献をすると考えられるか、800 字程度で述べなさい。